

第 3 章 布設工事の書類作成要領

	ページ
○提出書類の作成要領及び添付する書類	3-1～
○完成図の作成要領	3-3～
○仕切弁オフセット図	3-6～
○土工出来形管理図	3-7～
○舗装出来形管理図	3-8～
○給水管切替工事材料数量表 記入例及び計算例	3-9～
○材料記号表	3-11～
○管路平面図・配管図記号	3-13～

提出書類の作成要領及び添付する書類

- 提出書類の用紙及びファイルはA4縦長サイズとする。
(ファイルの表紙は下のように記入する。)

施工計画書

配水管布設工事(第〇〇〇工区)

令和〇〇年度

配水管布設工事(第〇〇〇工区)

施 工 計 画 書

令和〇〇年〇〇月

〇〇〇〇会社

○ 出来形管理書

○ 工事記録綴

※表題を替えて、後はすべて同様に記入する。

※印は不要

1. 施工計画書(様式集6-1)

施工計画書は当初・変更ともに内表紙も添付する。

2. 工事記録綴(様式集6-27)

3. 出来形管理書(様式集6-48)

4. 工事写真帳（定型A4）

<p>令和〇〇年度</p> <p>配水管布設工事 (第〇〇〇工区)</p> <p>写 真 帳</p> <p>令和〇〇年〇〇月</p> <p>〇〇〇〇会社</p>	工完 事 前成	工事着手前と工事完成後を対比にする 同一箇所を撮影する。
	代主 理任 人技	現場代理人及び主任技術者 現場の朝礼風景及び作業員打合せ状況 月例安全・訓練等の実施状況
	材検 料査 等	監督員立会い材料検査状況 材料養生状況
	保設 安設 施置	保安施設設置状況 ガードマン等の使用状況 通行制限許可書及び道路使用許可書の現場設置状況
	○管 路布 線設	施工方法の1日の作業フローを工程順にとじる 仕切弁、異形管及び離脱防止金具は、設置箇所ごとにとじる
	給切 水替 工	給水管切替工事材料数量表に付けた番号順にとじる
	残材 土運 廃搬	残土を処理した場所の全景を撮影する 建設廃材を運んで処理する業者が確認できた写真
	水仮 替設 工工	水替を使用している状況 その他の写真

完成図の作成要領

- 完成図は、A 1 サイズの白紙を原図として作成し、A 3 サイズに縮小したときに認識できる大きさの文字で記入する。
- 完成図は、案内図・管路平面図・配管図・側点及び配水管延長図・管路管理表・給水管取出管理表を作図する。
- 下段の記入欄は全て記入する。

1. 案内図

- i S = 1 / 2, 500 白図及び配管図を水道局で支給する。
- ii サイズはB 6 以上で、北を上にして完成図の左上に貼付ける。
- iii モノクロ印刷してもわかるように施工箇所をはっきりと塗りつぶす。
- iv 引出線で管種・口径・延長・自然圧・自然圧測定箇所を記入する。
- v 配管図番号を記入する。案内図中に町名がない場合は、町名も記入する。
- vi 完成図が複数枚になる場合は、管路平面図と同じページに貼付ける。

2. 管路平面図 (S = 1 / 500 以上)

- i S = 1 / 500 の基盤図を水道局で支給する。
- ii 管、仕切弁等及び給水管取出し位置を、基盤図よりも太い実線で北を上にした実測値で記入する。
給水管の取り出し先がわかるように、接続先の宅内配管等を記入する。
既設管は点線で表示し、工区番号、管種および管径を記入する。
(例 R00-000 HPPE φ100)
- iii 布設替工事等により廃管になった管は点線に×印 (例 -x--x-) で記入する。
- iv 引出線により、管路管理番号を記入する。
- v 宅地ごとに、地番・切替番号・氏名・水栓コードを記入する。
- vi 試験掘工は(A-a)で表示し、引出線により断面図を記入する。
- vii 掘削して他埋設管を発見した場合、試験掘工と同様に断面図を記入する。

3. 配管図 (S = F R E E)

- i 埋設深の変化点については、監督員と協議の上、詳細図を記入する。
- ii 既設管は点線で表示し、工区番号、管種および管径を記入する。
(例 R00-000 HPPE φ100)
- iii 既設バルブの開閉状態変更や制限バルブ等はその旨を記入する。

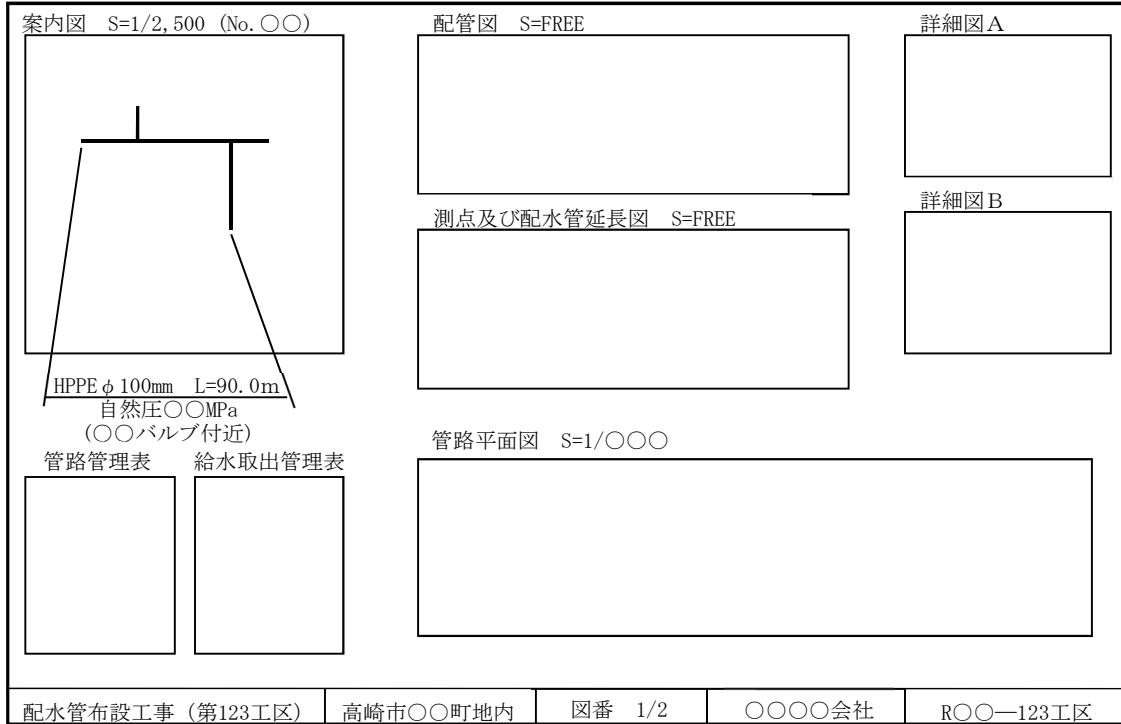
4. 測点及び配水管延長図 (S = F R E E)

- i 既設管—仕切弁(A1)—曲管(5° 5/8, 11° 1/4, 22° 1/2, 45° , 90°)—測点—二受T字管—仕切弁(A2)—管末の各間(距離)を引出線により記入する。
- ii 仕切弁(消火栓も含む)間の距離も記入する。
- iii 既設管は点線で表示し、工区番号、管種および管径を記入する。
(例 R00-000 HPPE φ100)

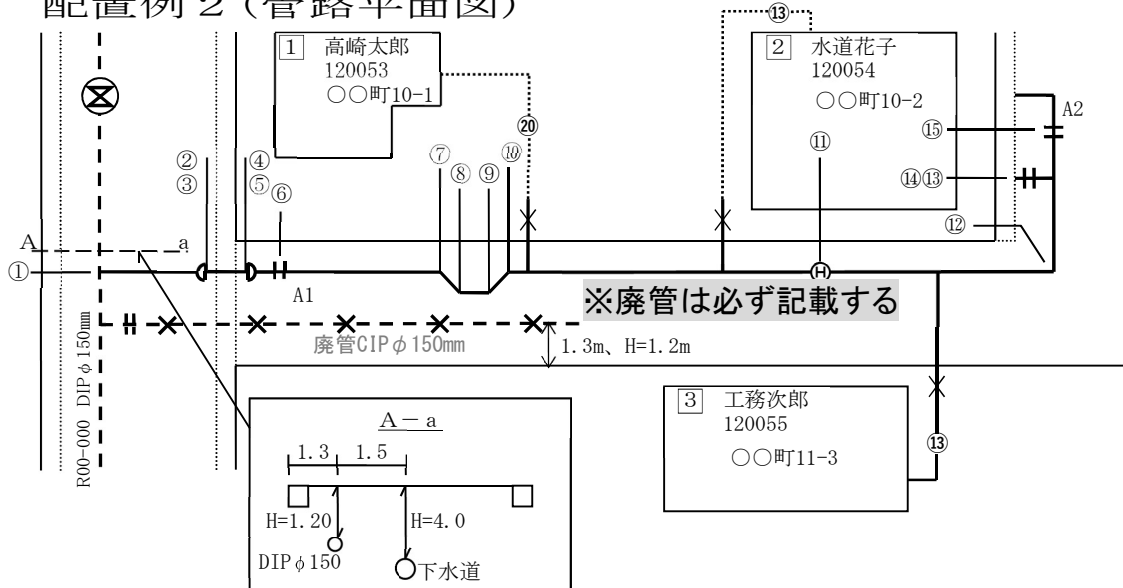
5. 仕切弁オフセット (S = F R E E)

- i 管路平面図の下絵の地図と配管図を用いてオフセット図を作成する。
- ii オフセットを記載する箇所は必要に応じて拡大する。
- iii 完成図にオフセット図のみのページを作成する。

配置例 1 (完成図)



配置例 2 (管路平面図)



管路管理表

NO	測点	離れ	深さ	適用・その他
①	A1-8.147	0.9	1.20	既設
②	A1-5.269	0.9	1.20	90°
③	A1-5.269	0.9	2.149	90°
④	A1-1.720	0.9	2.549	90°
⑤	A1-1.720	0.9	0.80	90°
⑥	A1	0.9	0.80	仕切弁
⑦	A1+30.737	0.9	0.80	45°
⑧	A1+31.117	1.2	0.80	45°
⑨	A1+35.526	1.2	0.80	45°
⑩	A1+35.906	0.9	0.80	45°
⑪	A1+68.395	0.9	0.80	消火栓
⑫	A2-8.959	1.5	0.80	90°
⑬	A2-0.44	1.5	0.80	二受T字管
⑭	排1	0.9	0.80	排水仕切弁
⑮	A2	1.5	0.80	仕切弁

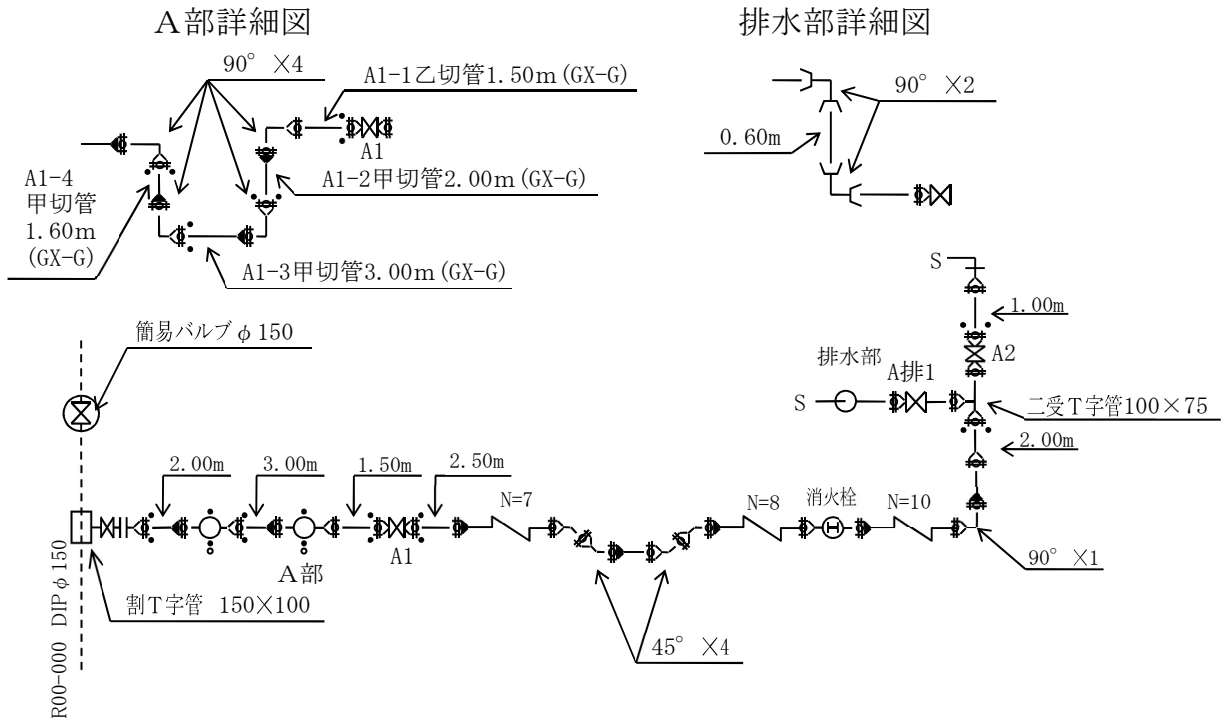
給水取出管理表

NO	取出位置	止水栓位置		取出口径	接続管種	既設口径
		左側	右側			
①	A1+39.2	0.9		SP φ20	VP	φ20
②	A1+60.3	0.9		SP φ20	VP	φ13
③	A2-12.5		4.1	SP φ20	量水器	φ13

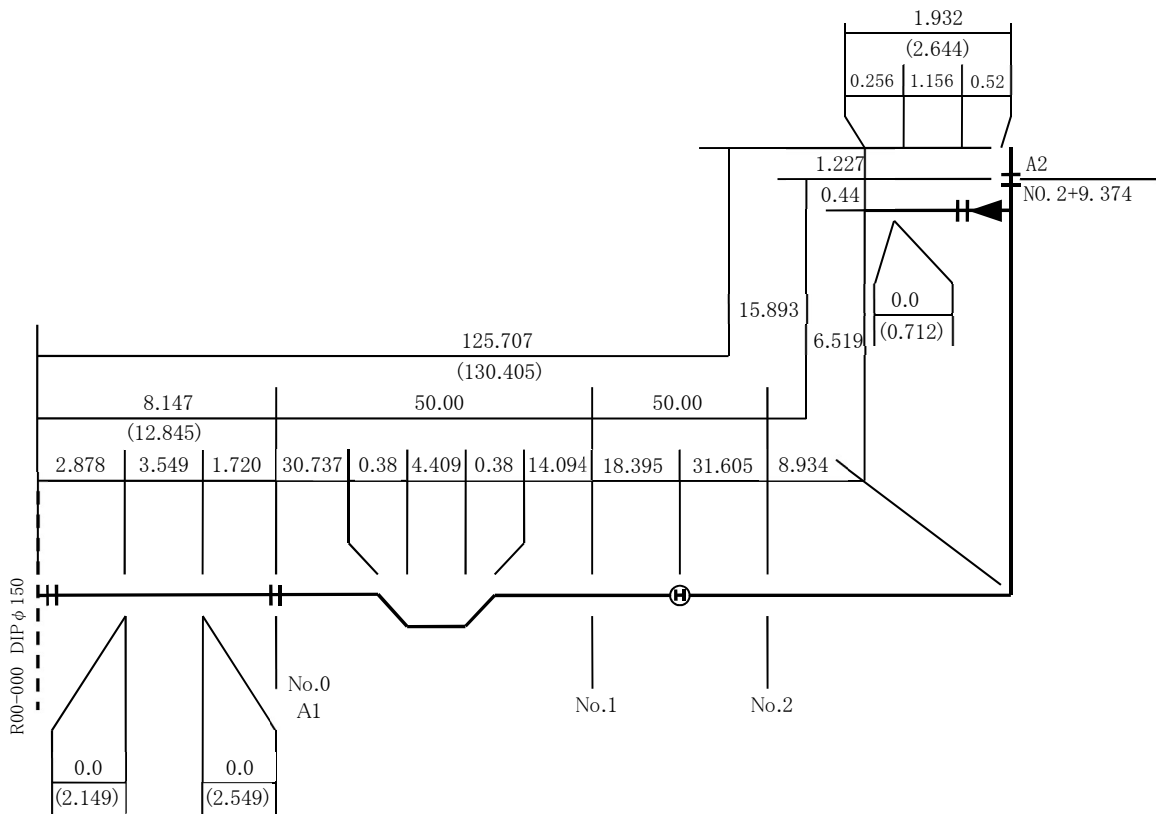
※測点の引き出し線は離れの測定方向に出す。
 ※給水管はどこに対するものか分かるように建物まで配管を記入する。(2次側は想定図でも可)
 ※乙止水栓、メータ口径ごとの記号を使い分ける。
 乙止水栓：× メータ：⑳ (口径丸数字)

配置例 3 (配管図)

※既設管の工区番号-管種-口径、制限バルブは必ず記入

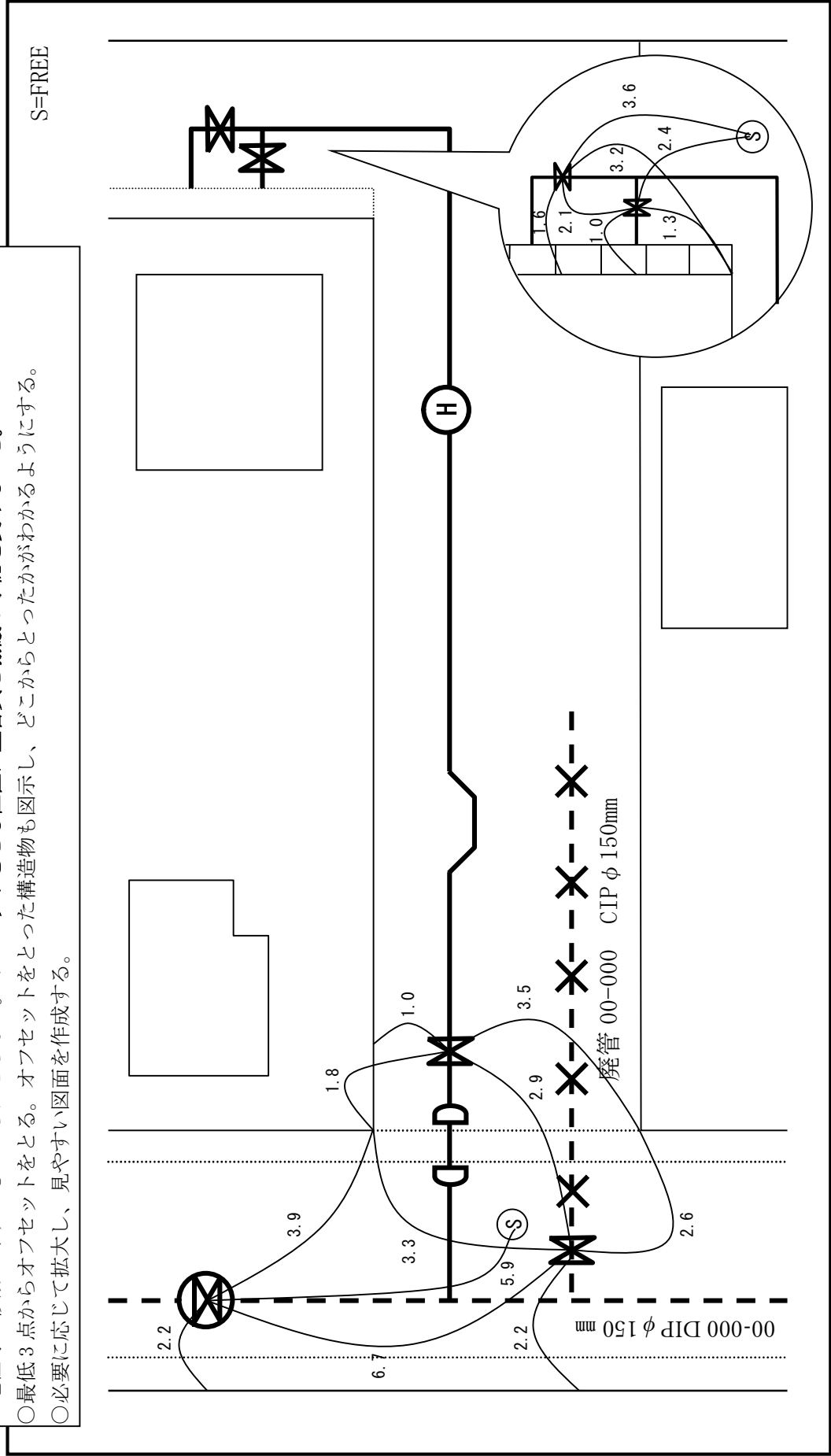


配置例 4 (測点及び配水管延長図)

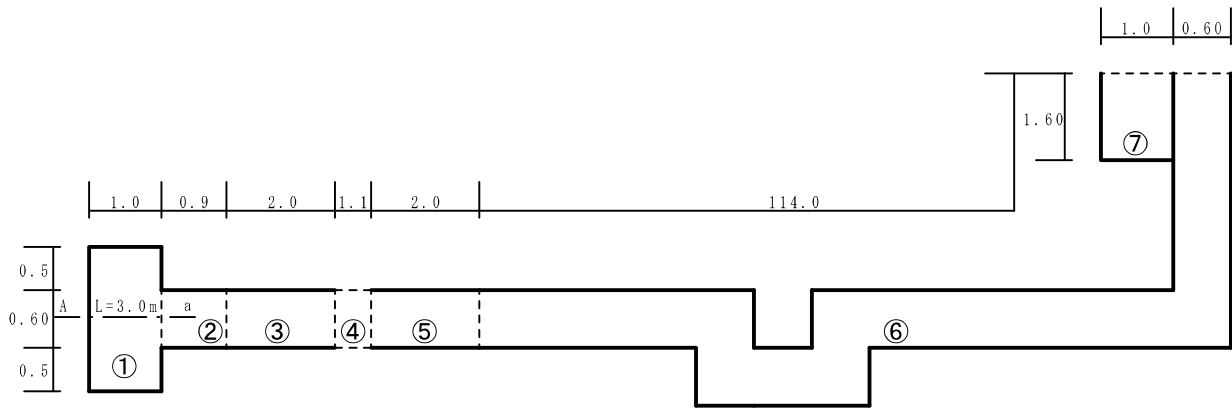


配置例5 (仕切弁オフセット図)

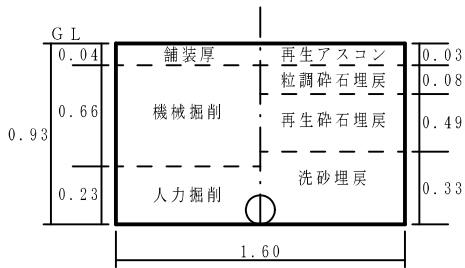
- 図示記号は管路平面図・配管図記号表から使用する。用紙サイズは完成図と同じとする。
- 当該交差点内の総ての仕切弁(既設管の仕切弁も含む)についてオフセットを記入する。
- つながりを把握しやすいように既設管は点線で表示し、管種・口径・工事番号を記入する。
- オフセットはなるべく構造物からとる。構造物が無い場合は、官民境界など位置が変わらないものからオフセットをとる。電柱等の移動しやすいものからはとらない。オフセットをとる位置は監督員と協議し承認を受けること。
- 最低3点からオフセットをとる。オフセットをとった構造物も図示し、どこからとったかがわかるようにする。
- 必要に応じて拡大し、見やすい図面を作成する。



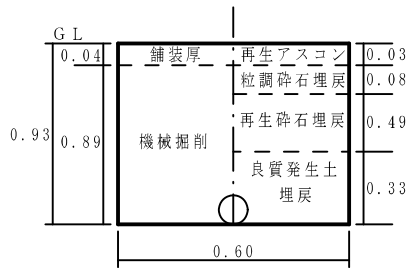
土工出来形管理図（例）



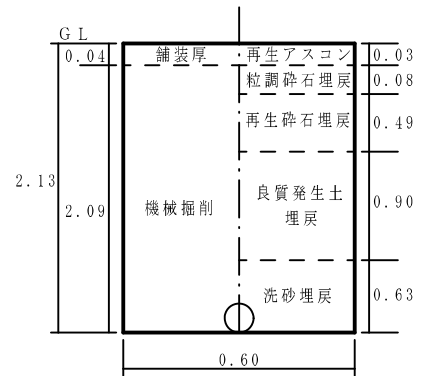
①⑦土工断面図



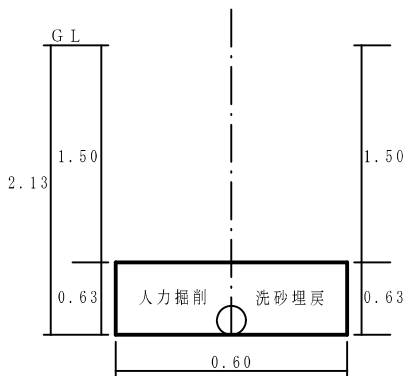
②⑥土工断面図



③⑤土工断面図



④土工断面図



土工延長

- ①⑦ (H=0.93 W=1.60) L=1.0+1.0=2.0m
- ②⑥ (H=0.93 W=0.60) L=0.9+114.0=114.9m
- ③⑤ (H=2.13 W=0.60) L=2.0+2.0=4.0m
- ④ (H=0.63 W=0.60) L=1.1m

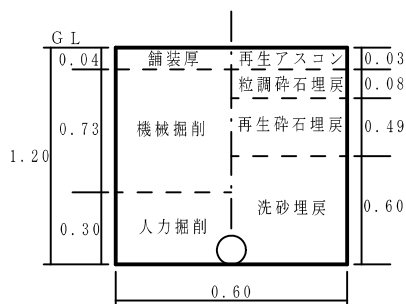
試掘掘工

A-a L=3.0m

舗装切断工

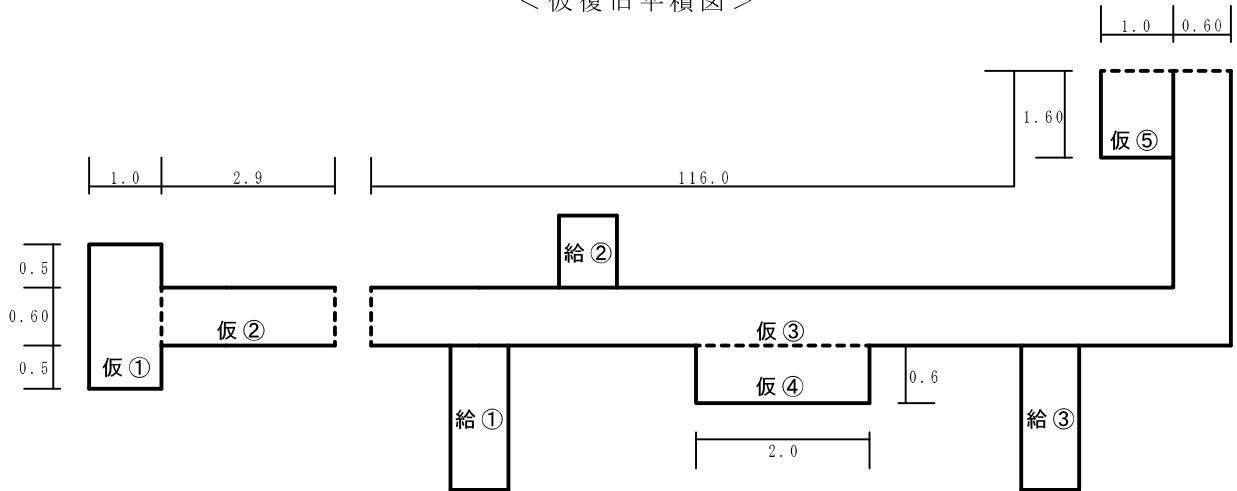
$$L=1.60+(1.0+0.5+0.9+2.0+2.0+114.0) \times 2+1.0+1.60=245.0\text{m}$$

A-a 試掘断面図



舗装出来形管理図（例）

< 仮復旧平積図 >



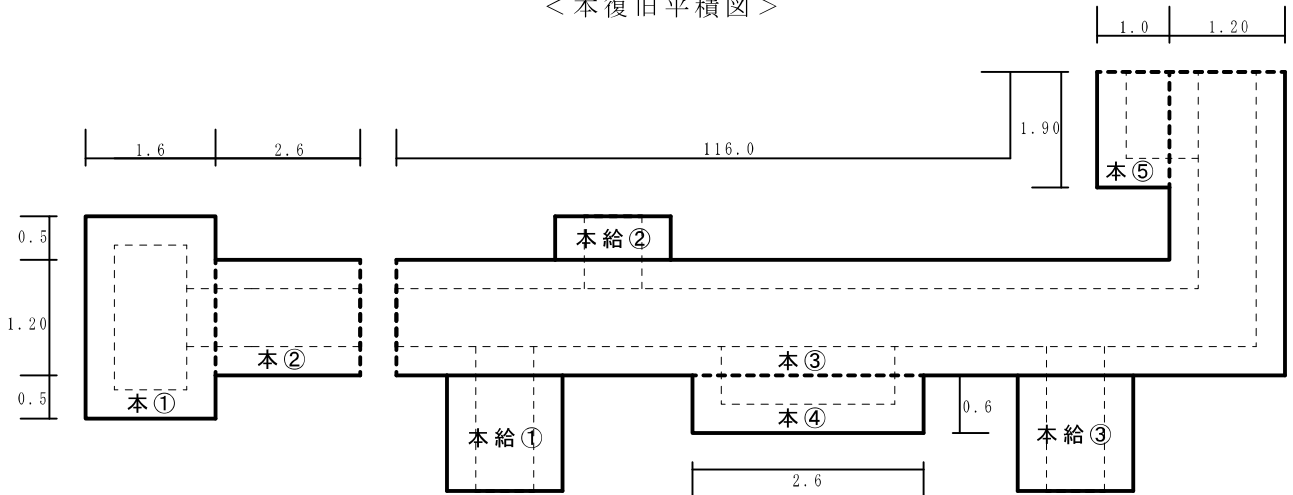
仮復旧舗装工（再生アスコン 3 c m）

$$\begin{array}{ccccc} \text{仮①} & \text{仮②} & \text{仮③} & \text{仮④} & \text{仮⑤} \\ 1.60 \times 1.0 + 0.60 \times 2.9 + 0.60 \times 116.0 + 0.6 \times 2.0 + 1.60 \times 1.0 = 75.74\text{m}^2 \end{array}$$

廃材処理工（仮復旧時）

$$75.74 \times 0.04 \text{（既設舗装厚さ）} \approx 3.0\text{m}^3$$

< 本復旧平積図 >



舗装版切断工

$$2.20 + (1.6 + 0.5 + 2.6 + 116.0 + 0.6) \times 2 + 2.6 + 1.0 + 1.90 = 250.3\text{m}$$

本復旧舗装工（再生アスコン 4 c m）

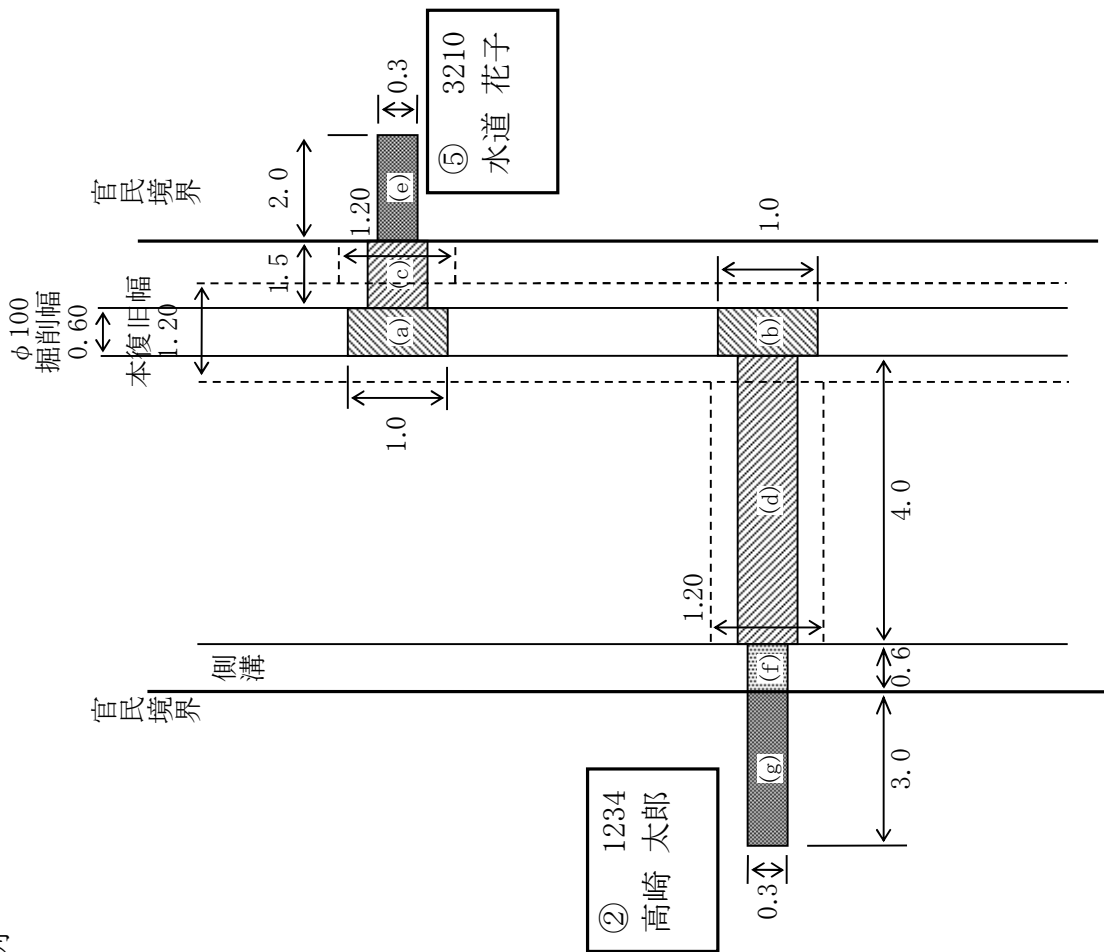
$$\begin{array}{ccccc} \text{本①} & \text{本②} & \text{本③} & \text{本④} & \text{本⑤} \\ 2.20 \times 1.6 + 1.20 \times 2.6 + 1.20 \times 116.0 + 0.6 \times 2.6 + 1.90 \times 1.0 = 149.30\text{m}^2 \end{array}$$

廃材処理工（本復旧時）

$$(149.30 - 75.74) \times 0.04 \text{（既設舗装厚さ）} + 75.74 \times 0.03 \text{（仮舗装厚さ）} \approx 5.2\text{m}^3$$

※ 給水管切替工の舗装切断工・舗装工・廃材処理工は給水管切替工計算表で計上

計算例



- (i) 舗装切断長 (横断工)
(c)1.5 + (d)4.0 × 2 = 11.0 m
- (ii) 舗装切断長 (本復旧)
(c)1.5-0.3 + (d)4.0-0.3 × 2 = 9.8 m
- (iii) 小穴工延長
(a)1.0 + (b)1.0 = 2.0 m
- (iv) 横断工延長
(c)1.5 + (d)4.0 = 5.5 m
- (v) 舗装本復旧平積及び舗装版掘削積込み
(c)1.5-0.3 × 1.20 + (d)4.0-0.3 × 1.20 = 5.88 m²
- (vi) 廃材処理 (本復旧分)
(c+d) ((1.5-0.3)+(4.0-0.3)) × 0.60 × 0.03 (仮舗装厚) = 0.088m³ ・ 横断部
(c+d) ((1.5-0.3)+(4.0-0.3)) × 0.60 × 0.04 (既舗装厚) = 0.118m³ ・ 既設部
合計 0.21m³
- (vii) コンクリート取壊し・復旧 (t=0.10)
(g)3.0 × 0.3 × 0.10 = 0.09 m³
- (viii) 埋設シート
(c)1.5 + (d)4.0 = 5.5 m
- (ix) 宅内土工
(e)2.0 + (f)0.6 + (g)3.0 = 5.6 m

材料記号表

(設計図面・出来形配管接合図に適用)

G X形ダクタイル鋳鉄管		水道配水用ポリエチレン管	
N S形ダクタイル鋳鉄管		硬質塩化ビニール管 (水道用ゴム輪ロング受口形継手)	

※本表はG X形で表示してあり(押輪等は省略)、他の形式については上記表の受け口を使用すること。表記の無いものは監督員に指示を受けること。

接合材料記号表

材料名 \ 使用例	水平使用	垂直使用	側面・横断	振上・振下	適用
割T字管 (本バルブ付)					引出線による名称及び口径等指示要
割T字管 (本バルブなし)					〃
二受T字管					〃
受挿し片落管					〃
挿し受片落管					〃
曲管 90°		上向き 下向き		振上 振下	引出線による名称及び口径・角度指示要
曲管 45° 他					〃
両受曲管 45° 他					〃
フランジ付T字管					引出線による名称及び口径等指示要
乙字管					〃
継ぎ輪					〃
押輪 離脱防止金具					
P-L i n k					引出線による名称及び口径・延長等指示要
G-L i n k					
切管 G X-G	甲切 乙切		甲切 乙切		引出線による名称及び口径・延長等指示要
切管 G-G					〃
切管 G X-P	甲切 乙切		甲切 乙切		〃

接合材料記号表

材料名 \ 使用例	水平使用	垂直使用	側面・横断	振上・振下げ	適用
ライナ入					
特殊押輪 K形					耐震型の場合は引出線による口径等指示要
仕切弁(受挿し) (ソフトシル仕切弁)					
仕切弁(両受け) (ソフトシル仕切弁)					
伸縮可とう管	フランジタイプ 	溶接タイプ 			引出線による名称及び口径等指示要
消火栓(単口)					”
空気弁					”
副弁					”
両フランジ短管					”
栓	コ				”
弁室					寸法等を図示
フランジ蓋					引出線による名称及び口径等指示要
HIVP ゴム輪形継手 離脱防止内蔵型					

管路平面図・配管図記号

(1/2500配管図に適用)

種別	凡 例			種別	凡 例		
	名 称	記 号	色		名 称	記 号	色
管 路	配水管	—————		管 種	ポリエチレン管 (青ポリ)	<u>HPPE φ100</u> PE φ50	
	導水管	- - - - (導)			不明管	—————	黒
	送水管	- - - - (送)		弁 ・ 構 造 物	仕切弁	— ⊗ —	黒
	個人管	- - - - (個)			閉栓仕切弁 (給水区域境)	— ⊗ —	〃
	不明管路	- - - - (不明)			排水弁	— ⊗ →	〃
口 径	φ400mm以上 (幹線)	—————			簡易弁	— ⊗ —	〃
	φ350mm以下	—————			閉栓簡易弁	— ⊗ —	〃
管 種	ダクタイル鋳鉄管	<u>DIP φ100</u>	青		逆バルブ	— ⊗ 逆 —	〃
	鋳鉄管	<u>CIP φ100</u>	ピンク		水圧試験枳	— ⊗ —	〃
	吋管	<u>CIP φ4"</u>	ピンク	空気弁	— ⊗ —	〃	
	石綿セメント管	<u>ACP φ100</u>	赤	逆止弁	— ⊗ —	〃	
	塗覆装鋼管	<u>SG φ100</u>	紺	減圧弁	— ⊗ —	〃	
	亜鉛鍍鋼管	<u>GP φ100</u>	紺	耐震貯水槽	[耐震貯水槽]	〃	
	ビニール管 VP HIVP	<u>VP φ100</u> <u>HI φ100</u>	エンジ	圧力自動 制御設備	— ⊗ —	〃	
	ステンレス管	<u>SSP φ100</u>		緊急遮断弁	[緊急遮断弁]	〃	
	鉛管	<u>LP φ20</u>		オフセット記号	(123)	紺	
ポリエチレン管 (黒ポリ)	<u>PP φ50</u>		管種等の表示	<u>HPPE φ100 R11-123</u>			

管路平面図・配管図記号

(1/2500、1/10000、管路平面図、オフセット図に適用)

種別	凡 例			種別	凡 例	
	名 称	記 号	色		名 称	記 号
消 火 栓	地上式単口 消火栓		黒	管 理 番 号	(年度)－(工区番号) 昭和51年以前(施工年度不明) A-123 昭和52年以降 S52-123 (昭和) H30-123 (平成) R10-123 (令和)	
	地上式双口 消火栓		〃			
	地下式単口 消火栓		〃			
	地下式双口 消火栓		〃			
	地上式・地下式・単口・双口 消火栓 1/10000のみ		〃			
そ の 他	片落ち管		〃	管 路 オ フ セ ッ ト の み 使 用 の 記 号		
	止め		〃			
	片押し路線の 水流方向		〃			
	水道橋		〃			
	下越し		〃			
	管の交差		〃			
	管種の区分	HPPE φ75 / DIP φ75	〃			
管 路 平 面 図 の み の 記 号	乙止水栓					
	量水器 (口径丸数字)					
	属性の区分	既設管 新設管 -----				

下水 マンホール \textcircled{S}
 NTTマンホール \textcircled{N}
 東電 マンホール \textcircled{E}
 東ガスマンホール \textcircled{G}
 東電 電柱 \textcircled{OE}
 NTT 電柱 \textcircled{ON}
 東電・NTT電柱 $\textcircled{OE\cdot N}$

ブロック塀

生け垣

マンホールは、センターから測った距離